

あまうち

舞鶴市立余内小学校

平成31年1月7日発行

(本年度11号)



校区教育目標 自らの未来を切り拓く「生きる力」を身に付けた 次代を担う児童生徒の育成



新年 明けまして

おめでとうございます。



新しい年をご家族お揃いでお迎えることとお喜び申し上げます。

昨年は、保護者 地域の皆様には、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜り、子どもたちの健全育成に向けてご支援いただきましたこと、心より感謝を申し上げます。お陰様で、子どもたちも、安心・安全・有意義な冬休みを過ごし、3学期を迎えられましたこと、重ねてお礼申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」と言われます。子どもたちは一年の始まりにどのような目標を抱き、計画を立てたでしょうか。新しい年を迎えた今の思いを忘れず、自分の夢や目標に向かって努力することを願っています。

さて、本日より3学期が始まります。3学期の授業日数は、51日（5年生は52日）です。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。」と言われるように、この時期は、あっという間に過ぎてしまうという感覚があります。期間の短い学期ではありますが、次の学年に向けて準備をする大切な学期です。3学期を終えて4月を迎えると、6年生は中学校に進学します。5年生は、最高学年として学校のリーダーとなります。1年生から4年生も、進級し、今の学年よりちょっと背伸びをして新しいことにチャレンジしていかなければなりません。足元の根をしっかりと育て、力を蓄えて、希望を持って新学年がスタートできるよう、居場所・つながり・やりがいのある教育環境を大切に、学びが実感できる教育活動を進めていきたいと考えています。子どもたちには、自分の周りの世界から五感を使って感じたことを心を添えて受け止めたり、周りの世界に働きかけたりすることで、生まれる気づきや驚きを大切に、自分の中の世界を広げていってほしいことを期待しています。6年生にとっては、小学校生活最後の3か月となります。きっと、たくさんの葉をつけ、花を咲かせた木に、「共に実る」姿を下級生に伝えてくれると思います。

本年も、教職員一同、力を合わせて保護者 地域の皆様の期待に、子どもたちの願いに応えられるよう努めていきたいと思っております。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

災い転じて福となす

校門を入ると目の前に見える植え込みに、「なんてん」が生えています。秋から実が赤くなり、今でも、鈴なりにきれいに赤い実を付けています。「なんてん」は、漢字で「南天」と書きますが、同じ音の漢字、「難転」につなげ、難を転ずるという意味合いから、厄除け



や縁起の良い植物とされています。玄関先や正月の飾りにもよく見られます。その年の世相を表した漢字に、災害の多かった昨年は「災」という字が選ばれました。今年が、「災難が転じて福となる」よい年になれば願っています。

校長 内藤 信雄